

介護老人保健施設 オアシス21 笠谷こずえ オアシス21 事務主任

功 績 蔓延している新型コロナウイルス。北海道では2月28日より鈴木北海道知事より緊急事態宣言が発令されました。現在も全国で一番多い感染者が出ていて、その中でも札幌市含める石狩管内が突出して多い状況。マスクは全国的に不足しているうえ、今後の入荷も見込めていません。看護、介護職員の中で不安が出てきているなか、事務の笠谷は布製の手作りマスクを200枚作製し皆の不安を取り除いた功績。

推 薦 者 宮前 元樹

推 薦 理 由 マスク不足が現場で働く職員の不安になっていたなか、医療職のサポートとして手作りマスクを作り続け、職員に配布することで、医療職の安心感にもつながり、大変感謝されています。これらの功績は理事長賞に値すると思ひ、推薦いたします。

※この布マスクは洗って再利用できることで、限りあるサージカルマスクの在庫管理にもつながっています。また、サイズも3種類と、個々の体形に合わせた物になっています。

内 容

2月25日頃の段階で、喬成会でのマスクの在庫は、通常通り使用した場合、残り1ヶ月(3月末まで)ということがわかり、マスクの使用は職員1日1枚との通知が流れ、3月上旬には2日で1枚と変わっていき、中には5日間洗いながら通常のサージカルマスクを使用している職員も出ています。

緊急事態宣言が出る前の2月25日、オアシス、花びりかで、衛生管理を目的に使用している栄養科のマスクを布マスクに変更し、1ヶ月に約500枚の使用を抑えることを指示し、事務で布マスクの生産に取り掛かりました。(1人2枚:プラスα合計60枚を作成目標)

笠谷含める事務員はパソコンの前にミシンを置き、布マスクの生産に取り掛かり、すぐに60枚を作成し職員に配布し任務完了。花川病院栄養科にも13枚配布出来ました。

しかし、笠谷はこの先のマスクの入荷が見込めないこともあり、また、1枚のマスクを何日も使用している職員がいることを知り、休日や仕事が終わった後、自宅でマスクの生産を続けてきました。結果、3月16日までに200枚以上のマスクを作成し、介護、リハ、事務系職員にも配布。しかも、全てのマスクは立体的で鼻を固定するためのマスク用の針金まで入れ、完成度が非常に高いマスクを作っています。